ひょうご人権ジャーナル

ひろげよう こころのネットワーク

きずな

K I Z U N A

2014
平成26年
4

特集テーマ 人　権

『平成25年度人権に関する県民意識調査』結果特集号

みんなで育てる　人権文化

2 人権文化あふれる 兵庫をめざして
兵庫県副知事　(公財)兵庫県人権啓発協会　理事長　金澤和夫
3 「私と小鳥と鈴と」金子みすゞ
人権に関する県民意識調査の概要
4 グラフで見る 人権に関する県民の意識
7 きずなコラム 物語に学ぶ
永田　萠さん(絵本作家)
8 情報ぷらざ

兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会

人権文化あふれる兵庫をめざして

桜花爛漫、春の訪れを感じながら、心新たに新年度を迎えました。職場や学校、地域などで新たな出会いがある4月、人と人との新しいつながりを実感されているのではないでしょうか。

さて、「人権」をめぐっては、女性、高齢者、障害のある人、同和問題、外国人、子どもの虐待やいじめ、体罰などの人権問題に加え、インターネットを悪用した人権侵害、いわゆるヘイトスピーチなど、人権に関わる新たな課題もあらわれています。

また、家族形態や雇用の変化、ライフスタイルや価値観の変化など様々な要因が重なり合い、他人への無関心やご近所づきあいの希薄化による地域の見守りや支え合う力の低下などが懸念されます。

県と当協会では、各市町など関係団体と一緒になって、「人権文化をすすめる県民運動」を展開しています。私は、この「人権文化」というのは、とても意味がある言葉だと考えています。私たちの日常生活には、畳や箸といったものがごく普通に溶け込んで日本の文化になっています。そのことを特別に意識することはありません。人権というものも同じようにすぐ身近なところにあり、意識することなく自然のものであってほしい、そんな願いが人権文化という言葉に込められています。人権文化に満ちた社会では、女性や高齢者、障害のある人達なども含めて、すべての人が自然な形で尊重され、いきいきと活躍できるでしょう。

お互いを大切にする気持ちは、つながりを生みます。つながりは新たな活力を生み、ますます兵庫が元気になるものと信じています。

昨年度の本協会の啓発活動では、20周年を迎えた「のじぎく文芸賞」には、人権文化の根付きを感じさせるすばらしい作品が数多く寄せられ、お互いを大切にすることがどれほどすばらしいことであるかを深く感じさせられました。12月には人権啓発ビデオ『ヒーロー』を制作しました。この作品は「無縁社会と家族」をテーマとしたものです。一人でも多くの方にご覧いただき、身近な人権課題について考え、見つめ直すきっかけにしていただければと思います。

また、秋には5年ごとの人権に関する県民意識調査を実施しました。多くの県民の皆さまのご協力に感謝いたしますとともに、その結果を踏まえて、さらに効果的な啓発活動に努めて参りたいと考えています。

本年度も人権啓発フェスティバルや研修の機会を通じ、県民の皆さまとともに人権について考えていきたいと思っております。刷新された「人権ジャーナルきずな」も引き続きご愛読をよろしくお願いいたします。

県民の皆さま一人ひとりが、人権感覚を磨き、人権意識を高めて、人権文化あふれる兵庫をともにめざしましょう。

兵庫県副知事
公益財団法人兵庫県人権啓発協会 理事長
金澤 和夫

私と小鳥と鈴と

金子 みすゞ

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面(じべた)を速(はや)くは走れない。

私がからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

『金子みすゞ童謡全集』(JULA出版局)より

金子みすゞ 1903(明治36)年
山口県生まれ。童謡詩人。小さなもの、弱いものへのやさしさにあふれた詩は、大人から子どもまで親しまれています。

写真提供:金子みすゞ著作保存会

人権に関する県民意識調査の概要

変化する社会の中で人権課題も複雑・多様化し、女性、子ども、高齢者、障害のある人、同和問題、外国人などの問題に加えて、インターネットによる人権侵害などさまざまな人権問題が発生しています。人権文化をよりすすめるためには、私たち一人ひとりが人権感覚を磨き、一人ひとりの違いを大切にして、お互いの人権を尊重することが大切です。

兵庫県と(公財)兵庫県人権啓発協会では、人権問題に対する県民の意識や動向を把握することを目的に、平成25年度、人権に関する県民意識調査を実施しました。本号では、調査結果の概要を紹介します。

調査結果に表れた県民の人権意識について、人権課題の解決に向けて取り組まれている関係者、各方面において人権教育・啓発に携わっておられる方々に、研修会や学習会等の機会をとらえて、ご活用いただければと考えています。なお、調査の結果につきましては、兵庫県のホームページ等で公表する予定です。

調査について

調査目的

県民の人権・差別などに対する意識を調査し、今後の効果的な人権に関する施策を検討するための基礎資料とする。

方法

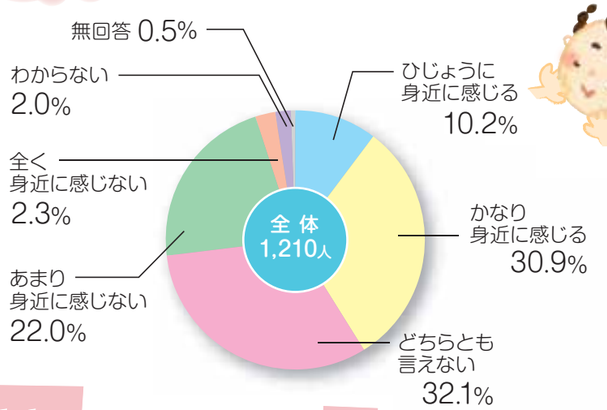
- 調査対象　県内在住の満20歳以上の男女(外国籍を含む)
- 調査数　3,000人
- 調査方法　層化2段無作為抽出による郵送法
- 調査時期　平成25年10月18日～11月8日
- 有効回答数　1,210(回収率40.3%)

グラフで見る 人権に関する県民の意識

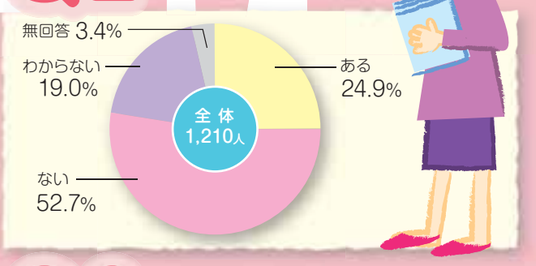
人権全般について

平成25年度人権に関する県民意識調査結果

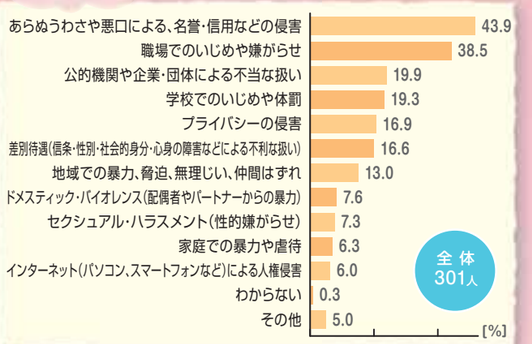
Q1 「人権」を、どのくらい身近な問題として感じているか。



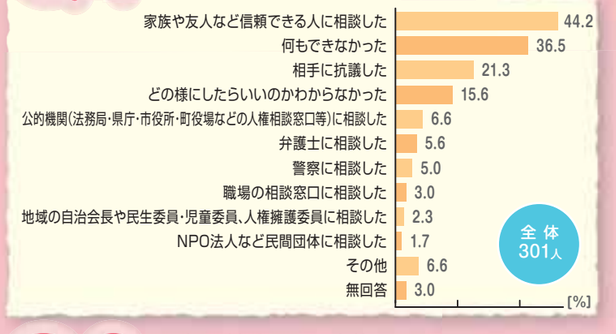
Q2 今までに自分の人権が侵害されたと思ったこと



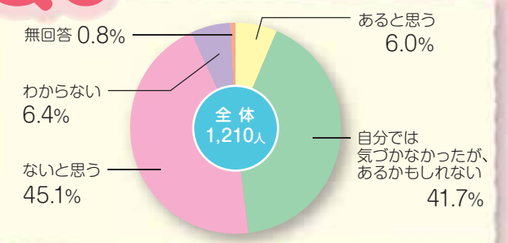
Q3 〈Q2で「ある」と回答した人〉今までに体験した人権侵害の内容（○はいくつでも）



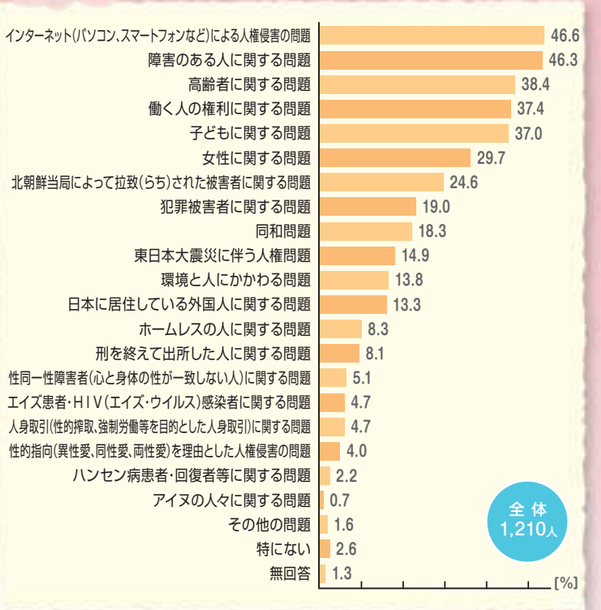
Q4 〈Q2で「ある」と回答した人〉人権侵害を受けたときどうしたか（○はいくつでも）



Q5 今までに、他人の人権を侵害したことがあると思うか

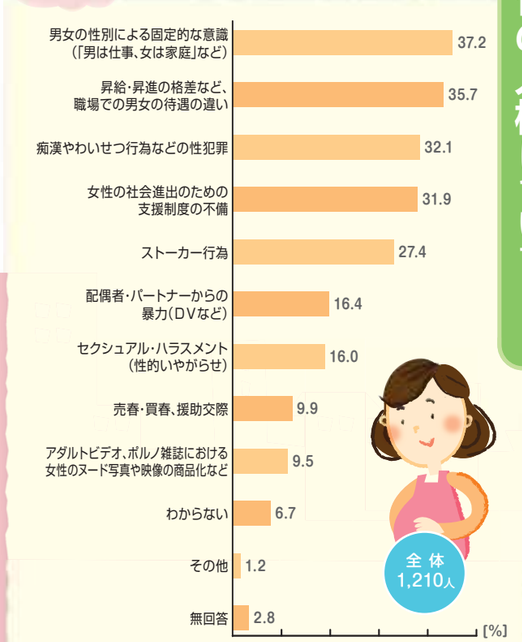


Q6 日本の社会には、人権にかかわるいろいろな問題があるが特に関心を持っているもの（○は5つまで）



女性の人権について

Q7 女性に関することで、人権において特に問題があると思うこと（○は3つまで）

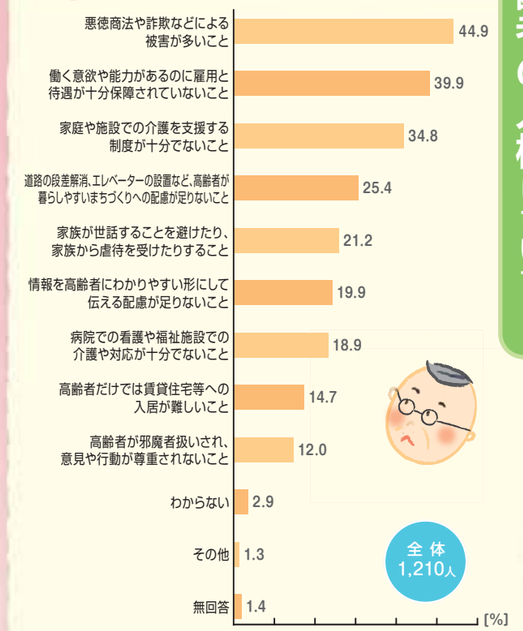


子どもの人権について

Q8 子どもに関することで、人権において特に問題があると思うこと（○は3つまで）

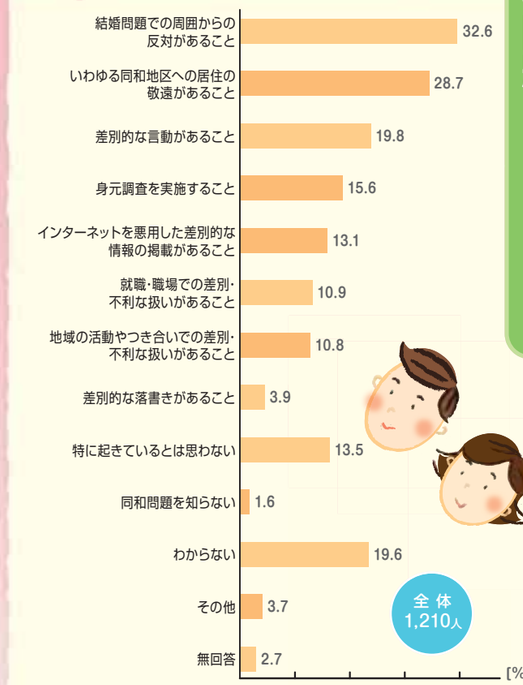
高齢者の人権について

Q9 高齢者に関することで、人権において特に問題があると思うこと（○は3つまで）



同和問題について

Q10 同和問題に関して、特にどのような人権問題が起きていると思うか（○は3つまで）



きずなコラム

絵本作家
永田 萠さん

物語に学ぶ

絵本作家のわたしには、挿絵の仕事の依頼も多い。これまで多くの物語に挿絵を描いてきたし、今日も描いている。文章が物語世界を完成させているので、後から絵を描くのは意外と難しい。その世界を視覚化するための読解力と想像力と表現力が問われるからだ。

これまでに絵をつけた物語でもっとも深く印象に残っているのは、アンデルセンの名作童話「みにくいあひるのこ」だ。もう20年も前になる。あひるのたまごの中から一羽だけ、体の大きなみにくいひなが生まれ、さまざまな差別と迫害を受けつつ、けなげに生き抜き、やがて白鳥になるというこのお話は、まちがいなくアンデルセンの代表作の一つだ。

書かれたのが1843年だからもう170年も前なのだが、これは本当によくできた物語だ。まさに現代のいじめ問題にも通じる人間の弱さやおろかさが比喩され、と同時に、逆境にも負けない強い心を持つみにくいあひるの子の生き方も人間の貴い本質に重なる。時代が移り社会の構造がどんなに変わっても、差別や人権の侵害は存在しているのだと、アンデルセンは時を超えて警告しているようだ。

わたしがこの挿絵を描いている時、息子はまだ小学生だったが、彼は「こんな話あかんわ」と言った。「なにがあかんの?」と聞くと「他人と形が違ってても差別したらあかん。それになんであひるより白鳥の方が上やねん。今度はあひるを差別してるやん。最後に白鳥やったからよかったね、言われても納得できひんわ」

170年後の少年のこの言葉をきっとアンデルセンは喜んでくれただろう。子ども時代に物語に学ぶことは子どもの特権だ。そこには大切な教えがある。あひるの子は美しい白鳥になっても心の痛みは消えなかっただろう。だがそのために他者に優しくなれただろう。それこそ誰もが尊重される社会を作るために、一人ひとりに求められることだ。

大切なことは案外易しい言葉と美しい絵に託されて絵本の中に隠されている。わたしはそれを伝えるのが自分の役割と思い、今日も絵を描いている。

プロフィール

イラストレーター、絵本作家。妖精をテーマにしたファンタジックな作風で画業38年の今も第一線で筆をとる。広告、切手等の商用イラストや150冊を超える出版物の制作と共に、定期的な国内巡回展や海外での作品展を行う。講演、審査や委員会委員などの活動も多数。

新着図書紹介

書　籍　「こわせない壁はない 人生が新しくなる33の心得」
著　者　鎌田實
発行所　講談社

鎌田實医師が、実話から導き出した新しい自分になるための33の心得。

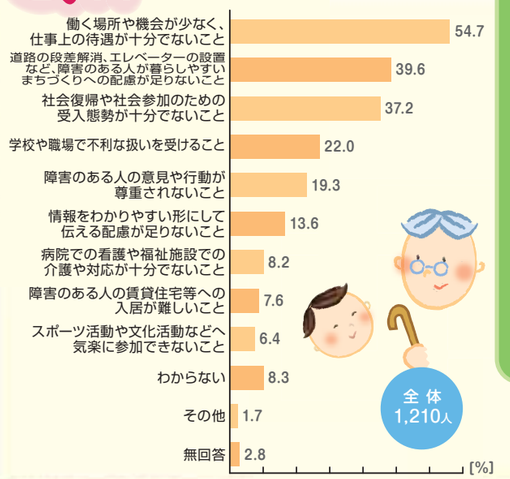
48歳でパニック障害になった筆者。激しい動悸に襲われ、冷や汗や不眠に悩まされる日々が続きました。そんなときに、常識や思い込みにとらわれていること、過去やその場の空気にとらわれていることなど、自分を取り巻く壁を取り壊して自分らしく生きることをスタートさせ、「新しい自分」に変わっていった経験がつづられています。

チェルノブイリ、イラク、東日本大震災被災地支援などを通して、自分のことだけを考えるのではなく、ほんの少しでも誰かのために行動しようと考えたことで自分の視野も大きく広がり、人と人を隔てていた壁が壊れていくことに気づいたといいます。

人生に起こる出来事が悪いことであったとしても、心の幅を広げ、自分を豊かにしてくれると気づかせてくれる一冊です。

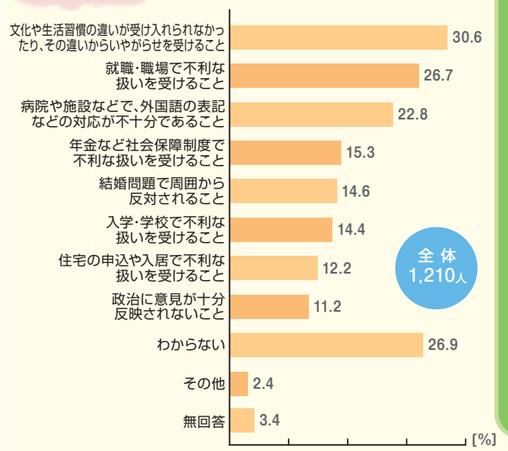
障害のある人の人権について

Q11 障害のある人に関することで、人権において特に問題があると思うこと
（○は3つまで）



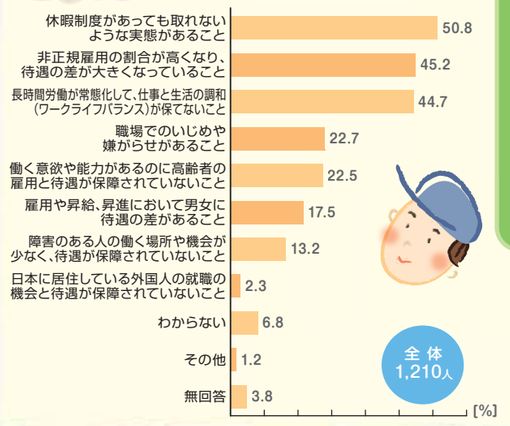
日本に居住している外国人の人権について

Q12 日本に居住している外国人に関することで人権において特に問題があると思うこと
（○は3つまで）



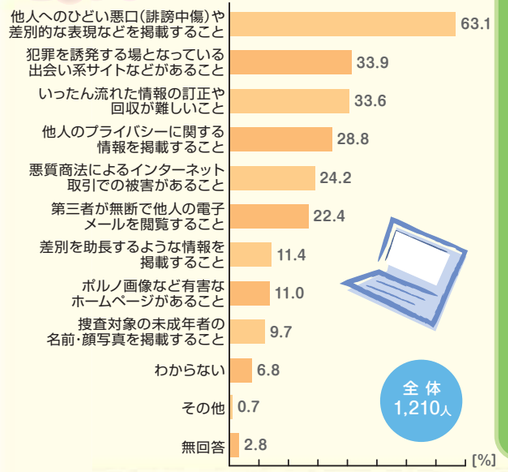
働く人の人権について

Q13 働く人の人権について最近特に問題があると思うこと
（○は3つまで）



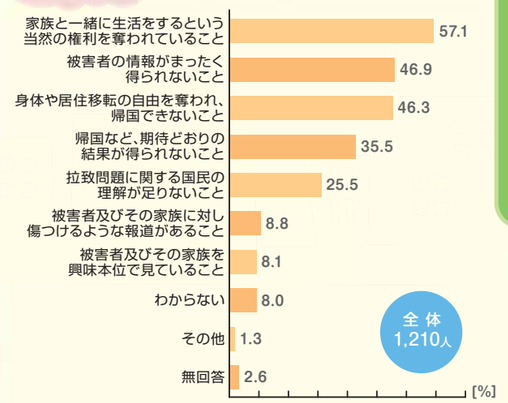
インターネットを悪用した人権侵害について

Q14 インターネットを悪用した人権侵害について特に問題があると思うこと
（○は3つまで）



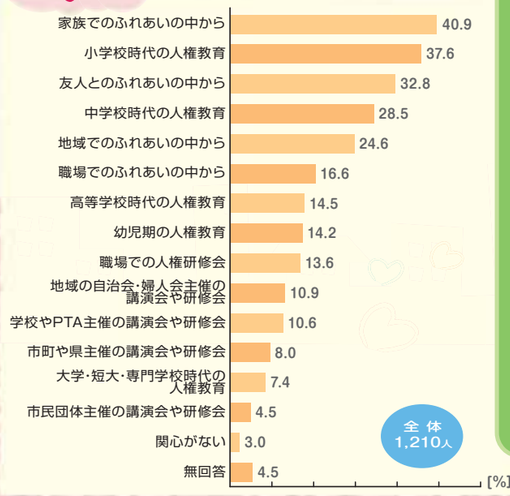
拉致問題について

Q16 北朝鮮当局によって拉致された被害者等に関し、特にどのような人権問題が起きていると思うか（○は3つまで）



人権尊重の考えに影響を受けたもの

Q15 人権尊重の考えについて強く影響を受けたと思うもの
（○はいくつでも）



人権文化をすすめる県民運動

私たちの身の回りにある様々な人権課題。
兵庫県と（公財）兵庫県人権啓発協会では、人権文化あふれる社会の実現に向けて活動しています。

人権啓発ビデオ

『ヒーロー』活用ガイドのご紹介

12月号でお知らせしましたように、県と当協会では、人権啓発ビデオ『ヒーロー』を作成しました。

このたび、この『ヒーロー』を使用した研修会等で、理解をより深めていただくための活用ガイドを作成しました。あらすじとポイントとなる台詞、学習展開例やワークシート、巻末には参考資料等をつけて、15ページにまとめました。ビデオをご購入いただいた方にお渡ししています。ビデオと合わせて、ぜひご活用ください。また、活用ガイドは、協会ホームページにも掲載しています。

問 （公財）兵庫県人権啓発協会　研修部
TEL 078（242）5355

（公財）兵庫県人権啓発協会では、賛助会員を募集しています。

入会すると、

(1) 「ひょうご人権ジャーナルきずな」（毎月発行）をお送りします。
(2) 人権啓発行事やイベント、講演会等の開催についてご案内します。
(3) 法人・団体会員には要請に応じ、研修会や講演会等に講師を派遣します。
（1口につき研修料から10,000円免除）※入会は、下記までお問い合わせください。

年会費（複数口加入できます）

個人会員　1口　1,000円
法人・団体会員　1口　10,000円

ハーフタイム half time

リニューアルした「きずな」はいかがでしたか。

編集部では、より身近に「人権」を感じてもらえるよう、タイムリーな話題を、わかりやすくお伝えしていきたいと思っています。皆さんの近くにあるユニークな活動や事業がありましたら、是非ご紹介ください。

本年度も、皆さまとともに人権について、考えていきたいと思います。ご意見ご要望がありましたら、下記連絡先までお寄せください。新しくなった「きずな」をよろしくお願いします。（小池）

「きずな」は、協会ホームページからもご覧になれます。

（公財）兵庫県人権啓発協会　〒650-0003 神戸市中央区山本通4-22-15　県立のじぎく会館内
TEL 078（242）5355　FAX 078（242）5360　info@hyogo-jinken.or.jp
兵庫県人権啓発協会　検索

2014（平成26）年4月発行